

性に合った人生

J&T環境株式会社 技術本部 技術部

土屋 美愉氏（高校68期）

東京都立川市出身
2016年 立川高校卒業
2020年 東京薬科大学 生命科学部 応用生命科学科 卒業
2022年 同大学院 生命科学研究科 修士課程 修了
2022年 J&T環境株式会社に新卒入社



■高校時代



カワハギと一緒に作成したマメアジの
透明標本

高校時代は生物部に所属し、のんびりとした生活をしておりました。生物部に入部したいと思った決め手は、生物の先生が面白い方だったからです。放課後は生物室に足を運び、トウキョウサンショウウオに餌をあげたり、押し花をしたり。可愛がっていたカワハギが亡くなった時はその子で透明標本を作ったりもしました。春は長沼公園で野草観察や秋川で淡水魚観察。夏は真鶴で海洋生物観察。秋はどんぐりクッキーを作り、冬の土曜日は野鳥観察で朝活。あとは冬の夜の高尾山でムササビ観察会。振り返ると自由気ままな高校生活でした。おかげで生物が好きになってしまい、大学は生命科学部とか生物学部と名の付く学部を受験しました。

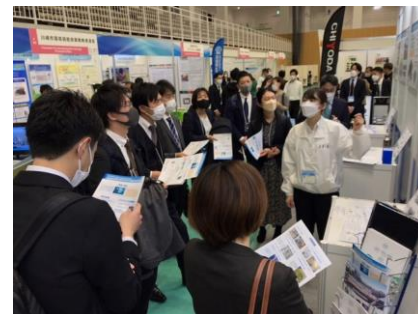
■高校卒業後

国公立第一志望でしたが、その大学とはご縁がなかった為私大の東京薬科大学に進学しました。東京薬科大学の良い点は、1年生から毎週実験の授業があることです。

大学4年から研究室配属で、発電菌を扱う研究室を選択。親友と同じ植物研に行こうか悩みましたが、講義で発電菌に触れたときに興味が湧いたことに加え、厳しい研究室という評判に対して怠惰な自分に鞭打ってくれそう！という考え方と、研究室は仲良しこよしで選ぶもんじゃない！というへそ曲がり精神が相まってある意味親友を裏切って選びました。

今の会社に応募するきっかけは研究室と会社が共同研究していたことが大きかったので、もしかしたら私にとって研究室選びは大きな分岐点だったかもしれません。

今の会社、J&T環境はいわゆる廃棄物処理業の会社です。入社2年目の現在は大学や企業と共同研究し、プラスチック分解菌を用いた廃プラ処理や、発電菌を用いたメタン発酵処理プロセスの高効率化といった微生物を用いた廃棄物処理の開発をしています。存外、社会人になっても微生物と関わりを持っていることは有難いです。できるのならば、これからも微生物を可愛がって生きていきたいと望んでおります。



展示会でプラスチック分解菌について
説明している

■立高生へのメッセージ

大層なことは言えません。強いて言うならば、選択肢があったとしたら、“楽な方”ではなく“楽しそうな方”を選んだほうが良いと思うよ、と言っておきます。

中学3年生の時に塾の先生に言われた「高校野球の球児が歳下になってからの人生はあっという間だ」という言葉が呪いのように今も脳裏にこびりついています。時間は残酷にも高速に過ぎていくものですので少しでも凝縮された時間にするために、“楽しそう”な選択肢で今を精一杯生きてください。